

自衛隊神奈川地方協力本部

CH-47J体験搭乗

神奈川地本カレッジ防衛モニター 阪西 貴広



CH-47Jに乗り込む

12月11日(日)、カレッジ防衛モニターとしての活動として、航空自衛隊入間基地で行われた輸送ヘリコプターCH-47Jの体験搭乗に参加した。

当日基地に入ると、基地内を西武池袋線が通っており、また駅の一方の改札口が基地に隣接し、途中踏切もあるのは驚いた。滑走路隣の駐車場にバスが到着し、基地ターミナルの中に入ると、以前研修したことがある厚木基地ターミナルの雰囲気と非常に似ているなどの印象を持った。

搭乗の順番となりエプロンに出ると、ヘリのローターによる風圧とヘッドセットを外せないほどのエンジン音の大きさに圧倒された。搭乗員の誘導で機内に入り後部のドアが開くと、ヘリは滑走を始めた。機内はヘリコプターとは思えないほど広く、その輸送力の大きさが伺えた。

離陸の瞬間は、気がつかないほど安定しており、外の街並みが見えるうちに小さくなっていくのが確認できた。飛行が安定すると、搭乗員の指示により安全ベルトを外して機内を自由に歩くことができ、後部座席の半球状の窓を覗くと、外の景色を十分に堪能することができた。

今回の活動は、自衛隊の保有するヘリコプターで、上空から東京の高層ビル群などを俯瞰できる大変貴重な体験であった。

CH-47J体験搭乗

神奈川地本カレッジ防衛モニター 一色 啓弥



機内の様子

12月11日(日)、カレッジ防衛モニターとして、入間基地で行われたCH-47Jの体験搭乗に参加した。同機は、昭和61年度以降、逐次配備されてきた長い歴史をもつ輸送ヘリであり、物資や人員の輸送だけでなく車両の輸送も可能とのことである。

当日は、約20人のグループに分かれて順次搭乗が行われた。搭乗の順番となり、機体から発せられる轟音と風圧に圧倒されながらヘリに乗り込むとすぐに離陸した。空路による移動は陸路とは比べ物にならないほど早く、あっという間に東京上空に着くとスカイツリーが見えてきた。また飛行中は、パイロット用のヘルメットを着用させて頂いたり、機内の様々な装備に関する説明を搭乗員から聞くことができた。

機内において特に印象に残っていることは、飛行中の安定性である。私自身乗り物酔いがひどく、先日体験したP-3Cへの搭乗の際には、強烈な吐き気を催してしまっていたが、今回の搭乗ではそのような症状もなく景色を楽しむだけの余裕があった。

物資・人員の航空輸送は、自衛隊の活動において非常に重要な役割を担っている。今回の体験を通じて、CH-47Jによる輸送任務がいかに安全・確実に運用されているかを知るなど、自衛隊への信頼を更に高めることができた1日であった。

駅前大型商業施設近くで市街地広報「あきらめないねばりの募集」



のぼり旗を持つ北川募集相談員とリーフレットを配る正田広報官



ジャケットを着て活動する北川募集相談員

神奈川地方協力本部厚木募集案内所(所長 岡山1海尉)は、1月26日(木)、27日(金)の両日、小田急線海老名駅周辺において、募集相談員の協力を受け、市街地広報を実施した。

同活動では、募集環境の厳しさが増し、学生の就職活動もほぼ終わりかけている中、主に自衛官候補生志願者獲得を目指し、募集用リーフレットとポケットティッシュを配布した。今回の活動では、募集相談員が新たに作成した募集広報用のオリジナルジャケットの着用とのぼり旗を掲げ、自衛官募集をPRして頂いた。

当日は、真冬の強風が吹く中での活動であったが、「リーフレットを貰えますか」という青年や、「主人が厚木募集案内所でお世話になりました。今週、予備自衛官補の訓練に行きます」という方もおり、2日間で計660枚を配布した。

厚木募集案内所は、「今後も、地域に根差した地道な活動を積極的に行い、募集目標の達成と防衛基盤の拡充にまい進していく」としている。